

「地域の中核、世界の人材」 UNIVERSITY OF YAMANA S H I

山梨大学広報[ヴァイン]

December 2014 vol.24

# Vine

## 反転授業と アクティブラーニング

[人物発掘]

芹澤如比古 准教授

(大学院教育学研究科 教科教育専攻科学文化教育講座)

[ゼミ紹介]

生命環境学部 地域社会システム学科

島崎ゼミ

サークル紹介/クローズアップびーぶる/キャンパス内外情報

大学の財政状況について





# 反転授業とアクティブラーニング

山梨大学では、高度な専門性、主体的な学習姿勢、高いコミュニケーション力を同時に身につけるため、反転授業とアクティブラーニングを導入しています。



課題の提示

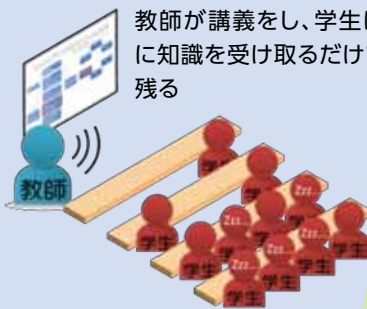


課題についてのグループワークの様子

## これまでの授業

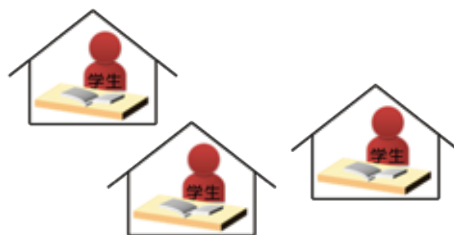
### 教室：一斉講義

教師が講義をし、学生は受動的に知識を受け取るだけで疑問が残る



### 自宅：演習など

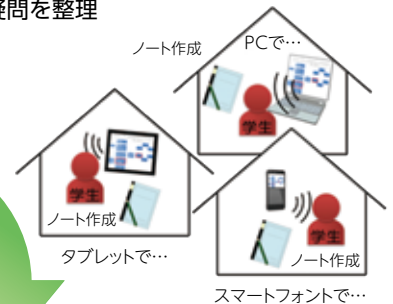
単位には自宅での予復習を含むが十分に行われているとは言い難い



## 反転授業

### 自宅等：動画で受講

学生は事前に知識を取得し、対面授業に向けて疑問を整理



### 教室：演習・議論

質疑、演習、協同学習等、知識の応用を学生主体の活発な学習(アクティブラーニング)により行い、理解を深める



#### ◎反転授業

授業と復習の学習を「反転」させ、授業前に理論や知識取得を行い、授業では理解度の確認や課題解決型の演習を行う形態の授業。

#### ◎アクティブラーニング

グループワーク・ディスカッション等、学生が自主的・能動的に取り組む学習形態。

大学生の学習意欲が低下し、主体性が欠如した学生が増加していることが大きな社会的問題となっています。山梨大学ではこれらの問題に対処するため、2012年度後期より工学部で反転授業とアクティブラーニングによる新しい授業スタイルの試行を行っており、一定の教育効果(成績の向上)がありました。

反転授業では新しい事柄を動画で事前学習(知識取得)してから、教室での対面授業に臨みます。授業中には、事前学習した内容を確認し理解を深める(知識の応用)ために、教師との質疑応答、グループでの議論や演習などアクティブラーニングによる学習を行います。これは学習内容の理解を高めると共に、プレゼンテーション力や主体性、協調性も高まる効果もあります。

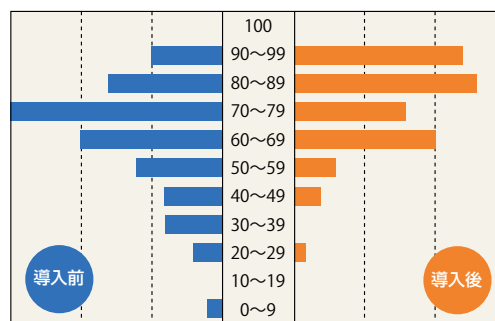


課題のまとめ

今後は、この取り組みを全学部に広めていく方針です。

反転授業は一方通行の講義の時間をなくし、アクティブラーニングの時間を生み出すことができます。その結果従来できなかった量や応用レベルの演習問題に取り組むことが出来るようになったことは大きな効果です。

加えて「学生が疑問点を持って授業に参加できる」という、単にアクティブラーニングの時間を生み出せることに留まらない効果が見出されました。事前学習を通じて学生は「分かっていること/分からないこと」を把握したうえで授業に臨み、演習や教員への質問を通じて疑問点を解消します。「アクティブラーニングでは質問がしやすくなり、その場で疑問点が解消できる」とコメントする学生もいました。



【反転授業導入前後の成績比較】

工学部のある専門科目の成績を2年分比較した図です。これまでの授業方法による成績が青色、反転授業導入後の成績がオレンジ色で示されています。高得点者の割合が大幅に増えていることがわかります。

### 学生の声

反転授業を受けて、授業が楽しくて、勉強も好きになって、点数も良かったので、そこから勉強するようになった。最初は就職するつもりだったが、大学院に進み、学力も精神面も成長して、社会に出たい。

工学部4年  
田村卓也さん



# 発掘人物



## 芹澤如比古准教授

(大学院教育学研究科 教科教育専攻科学文化教育講座)

2012年に精進湖、2013年には本栖湖でフジマリモを発見し、富士五湖すべてでフジマリモの生育を証明した芹澤如比古准教授。エビヤドリモを付けた淡水エビや、キッコウジュズモを付けたクサガメなど、風変わりな仲間と共に過ごす研究室で、魚釣りに興じた子ども時代から、魚から海洋植物へと転換した学生時代のこと、そして、「フジマリモ」発見の裏話や学生への思いまで、熱く語ってくれました。

### 自然に親しみ、生き物が大好き。 将来の夢は昆虫博士だった。

小さい頃から虫や植物に興味があって、保育園の頃は昆虫博士になりたいと思っていました。それが、小学生になって、先生に黙って友達と川へ魚釣りに行くようになると、今度は魚がおもしろくなっていきました。

大学は魚の研究が出来るところを調べて、高知大学理学部生物学科へ進みました。高校生の頃から、大学ではタナゴか肉食の雷魚などの淡水魚の研究がしたいと思っていて、入学後も、生態をやるか、それとも分類をやるかなんて考えながら過ごしていたのですが、いざ3年になって魚の研究室を覗いたら、色が抜けて真っ白になったカレイの仲間のホルマリン漬けのビンの前で、先輩たちが骨を数えていました。魚の分類って、基本的には骨なんです。骨の数である程度分類が出来るので、数える必要があるんですね。それを見て、「ああ、僕にはできない

なあ」と。そういう意味では、想像していたのと違っていたと言えるでしょうね。

そんなとき、たまたま海洋植物の研究室に入った友達から、「スキューバ潜水して海藻を見るんだよ」と聞いて、水泳は得意だったし、海の中で海藻を見るのは楽しいだろうなと、海洋植物の研究室に入りました。子どもの頃、川とか池とかで釣りをするなかで、魚だけでなく水草にも興味がありましたから。それが今につながっているんだと感じますね。

### 専門は海藻の生理生態学研究

専門は、海藻の生理生態学研究です。陸上の植物は分布や生態に関する研究が進んでいますが、水中の植物に関してはそれがあまり進んでいない。僕の研究はまさにそこにあって、水深何メートルのところどんな植物が生育しているのかということや、その植物はどんな生態をしているのかといったことを、光との関係から調べています。水中の植物も光合成をしているので、光との関係は分布や生

態を解明していく大きなヒントになるんです。

もともとは海での研究が中心だったのですが、淡水にも、海藻の仲間の淡水藻がいるので、今は湖、特に富士五湖での淡水藻の研究もしています。

### 2013年、 本栖湖で「フジマリモ」を発見!

2012年の6月に、精進湖での潜水調査でフジマリモを発見したのに続いて、2013年11月には本栖湖でもフジマリモを発見して、富士五湖すべてにフジマリモの生育が確認された大きな話題になりました。これは、光との関係で追いかけた成果です。



例えば本栖湖の場合、それまで少なくとも2回の調査が行われていて、採集器で水草は採集されていたのですが、フジマリモは採集されていませんでした。それで、「本栖湖にはフジマリモはいない」と思われていたわけです。でも、光という観点から見ると、富士五湖では、水面上の光量の5%程度の水深まで水草が生育しているということがこれまでの調査でわかってきました。ならば、本栖湖で光量5%の水深はどれぐらいになるのか計算すると、水深20mになったんです。ところが、従来フジマリモの生育水深はもっと浅いところだと考えられていたために、水深20mまでは誰も調査していなかったんですね。それで、20m付近まで行けばいるかもしれないと潜ったところ、まず水深17m位で石に付いているのを見つけて、「やっぱりこの辺りに居る」と。一緒に調査していた大学院生2人に水中で

合図して探した結果、水深17~22mにフジマリモが生育していることがわかりました。

もちろん、そこに至る過程では、富士五湖他の湖でのフジマリモの生育状況とか、そこから考えられる生態とか、富士五湖の成り立ちとか、地元の話とか…、そういった背景もすべて考えて予測を立てるわけですが、そういった予測の上で実際に調査をして、それまで誰も見たことがないものを自分だけが見ることができたときには、「やったー!!」という気持ちになりますね。そこが、研究の醍醐味と言えるかもしれません。

### 理科好きな子を 育てられるような 教員に育てたい

大学では、教員を目指している学生に対し、将来教員になったとき、理科の授業が出来るようになるための授業をしています。学生を見ていると、実験や解剖の経験が少ないなあと感じますね。もしかすると、小さい頃から自然に親しむという機会がないまま来てしまった子が多いのかもしれない。でも、解剖一つとっても、実際に魚を開いて、これが心臓だ、これが浮き袋だとやると、資料集を見せてさーっと流すのとでは、全然違うと思うんですね。理科のおもしろさっていうのは、実験とか調査を通して、気づいたり、伝えられたりするものだと思うので、授業では写真くらいしか見せられないですけど、調査に行った後にはその裏話をしたり、亀に付いている「キッコウジュズモ」とか淡水エビの筋

肉から生えている「エビヤドリモ」のようなちょっと風変わりな淡水藻類を紹介したりして、まずは学生自身に興味を持ってもらえるよう努力しています。

大学では国語や社会を専攻している学生も、小学校の先生になれば理科を教えなければならぬわけですから、本人の得意不得意はあるにしろ、子どもたちに理科を好きになってもらえるように教育できる先生になって欲しいなと思いますね。例えば遠足に行きながら一緒に歩いているときに、「先生、この花何ですか?」と聞かれて、「きれいだね」では寂しいだろうと。せめて「キクの仲間だね」くらいのことは答えて欲しいし、その場では答えられなくても、「帰ったら一緒に調べよう」と言って実践できるようになって欲しい。そんなわけで、キャンパス内に生えている植物を10種類ずつ採って来させて、自分たちで図鑑を使って調べさせるなど、ただ見て覚えるだけで終わらないように工夫しています。

### キーワードは、「楽しい!」

若い人には「楽しい!」と思えることを見つけて欲しいですね。やりたいと思うこと、楽しいと思えることを見つけられれば、きっと毎日が楽しくなる。僕は、わくわくするようなことが無い毎日を送るよりも、それを見つけられた方が、豊かな人生になるんじゃないかと思うんですね。

大学を選ぶときも、偏差値とか、センター試験の点数だけじゃなくて、先生がどんなことを研究しているのかというような視点を持って

欲しい。そこには、何がやりたいんだとか、何をやったら楽しいんだとか、どんな教科が好きなんだとか、どの教科を大学で勉強したいのかといった、「自分」があるわけですから。僕自身は、そういうことを考えられるような子を育てられる教員を育てたいなと思っているんで。

「楽しい!」と  
思えることを見つけよう。  
そうすればきっと、  
毎日が楽しくなる。  
人生が豊かになる。

人物発掘◎芹澤如比古准教授



# Serisawa YUKIHIKO



#### 【略歴】

- 1993年3月 高知大学理学部生物学科卒業
- 1995年3月 高知大学大学院修士課程理学研究科生物学専攻修了
- 1999年3月 東京水産大学大学院博士後期課程水産学研究科資源育成学専攻修了
- 1999年4月 東京水産大学研究生
- 2001年4月 (有)エコシステム 研究員
- 2001年5月 千葉大学非常勤講師(研究機関研究員)(千葉大学海洋バイオシステム研究センター)
- 2003年4月 日本学術振興会特別研究員(勤務先:千葉大学海洋バイオシステム研究センター)
- 2005年4月 東海大学講師(海洋学部水産学科)
- 2007年4月 山梨大学准教授(教育人間科学部)

#### 【専門分野】

生態・環境 (水圏植物生理生態学)

#### 【受賞歴】

- 2002年 Poster Competition 2nd Grand Prix in Algae 2002 (ポスター賞)
- 2003年 最優秀ポスター賞(日本水産増殖学会第2回大会・日本水産増殖学会)



## スマートコミュニティの実現に向けた 最適なエネルギーマネジメントの提案

### ゼミ配属

地域社会システム学科はマネジメント・プロフェッショナルの育成を目的として、経済、経営、政治、法律が学べる文系学科です。ゼミ配属は、2年次の1月末に学生が志望届を提出し、3年次の4月からです。その後、2年にわたり学生と教員が協働し、卒業論文の完成をめざします。

### 研究内容

島崎ゼミでは地域社会における賢いエネルギーの使い方について研究しています。エネルギーは私たちの生活の基盤です。しかしながら、日本のエネルギー自給率はわずか6%です。地方創生の観点も含めて地域資源の活用およびエネルギーの効率的な利用が不可欠です。

たとえば、山梨県は「エネルギーの地産地消」の実現に向けたロードマップを公表しました。太陽光発電、小水力発電、バイオマス、燃料電池などの分散型エネルギーを拡大する手段のひとつとして、スマートコミュニティの導入が計画されています。これ

は情報通信技術を用いて、地域単位でエネルギー需給を最適制御し、快適なライフスタイルを視野に入れた次世代社会インフラのことです。今後、地域特性を生かし自然との共生を含めた広い解釈から具現化していく必要があります。ただし、簡単に導入実験ができないため、対象地域の情報を収集し、最適化手法や地理情報システムなどのツールを用いて、シミュレーションをします。その結果から望ましいエネルギーマネジメントの方法を提案します。

また、スマートコミュニティを展開するにあたり、決して技術に任せるだけではなく、エネルギーの使い方に対する適切な判断力が人間には求められます。そこで、次世代層を中心に、出前授業を積み重ねて、エネルギー環境教育の効果的な実践方法を追究しています。現在、1964年と2020年における家電製品の変遷とライフスタイルを題材に学習指導案を開発中です。

### ゼミ概要

ゼミは週に1回のペースで行っています。小中高の出前授業にも積極的に参加して

います。夏休みには先進地視察として、横浜市のスマートハウス(次世代環境住宅)を見学しました。現在、地域社会システム学科1期生(島崎ゼミ15期生)の3年生は「スマートシティ甲府の創造」をテーマに設定し、発表資料をまとめています。

ゼミ伝統のイベントも存在します。お花見、OBOG会、スイカ割り、焼き芋、ソフトバレーボールなどです。さらに、循環リーグと呼ばれる学年対抗のフットサル大会を企画し、12年以上も継続しました。通常の研究活動に加えて、いろいろなイベントを体験することによって、豊かな感性を磨くことができれば何よりです。

合い言葉は「継続はエネルギーなり」です。教員およびゼミ生一同、心に決めたことは一生懸命に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献したいです。



スマートハウスの見学会



OBOG会の集合写真

# close-up people



◎教育人間科学部学校教育課程国語教育専修4年  
栃木県出身  
片岡 亮さん 栃木県中学国語教員採用予定

## 教師になろうと思った理由は？

小学校3年生の時に、授業中に池に落ちたことがあるんです。その時、先生がすばやく助けてくれたことが、とてもかっよく感じて教師という仕事に魅力を感じるようになりました。

### —どうして国語教育専修へ？

今は国語教育専修に在籍し学んでいますが、高校の文理選択は理系で、国語は嫌いでした(笑)高校の古典の授業で、その世界に魅了され、一気に好きになりました。それで、理系にいらながらも、国語教師の道へ進もうと思いました。今も卒論で古典教育に関する研究を進めています。

## 教師になる夢を諦めたことは？

教師になりたい気持ちが消えたことはないですね。でも、このまま卒業してすぐ教師になってよいのか悩みました。

### —どういうことに悩んだ？

社会経験が足りない今のままだと、視野が狭い教師になってしまいそうに感じたからです。より広い世界や多くの可能性を子どもに見せてあげられるような器量を持って教職に就きたい気持ちが強かった



卒論研究風景

んですよ。でも、若い時にしかできない教育の仕方もあると感じるようになったこ

とや、教師になってからいろいろな研修や活動に積極的に参加することにより、学べることもたくさんあるということを考え、新卒で教師になろうと決意しました。現在も、少しでも社会経験を積めるようにと、3年生の夏から飲食店でアルバイトを始め、『初めてのこと』への挑戦をしています。

## 大学生生活の思い出は？

やっぱり、部活動と教員採用試験ですね。部活動は4年生の9月に引退するまで、柔道部でした。自分が好きな柔道を子どもたちに教えたいと思うのですが、高校生までの力量では無理なので、大学でも続けることにより、技術を向上させたいと思って努力しました。去年の関東ブロック大会で団体で3位になったときは本当にうれしかったです！



関東ブロック大会3位!

教員採用試験は楽しかったと思っています。もちろん、いくら勉強しても足りない気持ちにしかならなかったり、辛いこともありました。でも、二次試験の面接や模擬授業の練習で仲間と協力する機会が多かったので、お互い良い刺激になり、切磋琢磨できました。試験こそ、一人の戦いになりますが、それまで培ったものは自分一人だけの力ではないという気持ちで本



国語教育専修4年生の仲間たち

番に望み、良い結果につながることができました。

## 大学で印象的だった出会いは？

やっぱり国語教育専修の同期のみんなですね。個性の強いメンバーが集まったので、衝撃は強かったですね……。もちろん良い意味で(笑)

—その出会いはどういったものになりましたか？

自分の視野の狭さにも気づかされた部分はあります。教育人間科学部に來る人たちはみんな、「絶対に教師になりたい」という人が集まっていると思っていたり、「すごい生真面目な人の集まりなんだろうな」と思っていたり。実際には色々な考えを持った人が集まっていたことで、自分とは異なる考え方で受け止められるようになったと思います。

## 将来の展望は？

漠然としてではありませんが、将来はグローバルな人材養成に携わりたいと考えています。以前から日本には、国際的な支援にもっと協力的な国になってほしいという気持ちがありました。そのためにも、貧困などの国際問題に理解のある人材がより多く育たなければならないと思うので、将来はこのような国際問題に対する根本的な教育を変えていきたいと思っています。

## もうすぐ卒業ですが、後輩のみなさんに一言

今みなさんが学んでいることは、将来どのような進路に進んだとしても、必ず何か活かすことができます。教師だけではなく、社会全体で子どもを育てる、僕はそうあってほしいと思っています。自分も含め、皆さんも、今学んでいることを活かせるよう、がんばりましょう!



公式サークル  
**BUMPS**



活動後の集合写真

みなさん、こんにちは!山梨県内最大のインカレサークル、BUMPSです!インカレサークルとは、「インターカレッジサークル」の略で、山梨大学以外にも多くの大学生が活動に参加し、交流を深めています。山梨県内の大学生、専門学生なら誰でも参加が可能です。構成は、山梨大学、山梨県立大学の学生が多いです。そして、BUMPSには、1・2年生しかいません。サークル長である、河村剛(工学部応用化学科2年)が昨年発足したサークルであるからです。100名近く集まった仲間と、新たな歴史を作って行きたいと思っています。



夏合宿、海でピース

では、何をしているサークルなの?と思う人がいると思うので、ここで活動内容を紹介!活動は、毎週木曜日18:30~21:00、山梨県立大学池田キャンパスの体育館を借りて、バスケットボールをしています。バドミントンなどの他のスポーツをするときもあります。みんなで汗を流した後、ご飯を食べに行き、さらに交流を深めています。また、その活動以外にも、長期休みには合宿へ行ったり、バーベキューをしたり、様々なイベントを実施しています。特に、冬にはスノーボー合宿を企画し、季節のスポーツを



スノーボー合宿にて

楽しみました。スノーボードが得意な人も初めての人も、お互いにコミュニケーションをとりながら、寒い季節に汗を流した時の充実感は、他ではなかなか味わうことが出来ません。そして、夏には海へ行ったりと、サークルの仲間思い出をたくさん作っています。長期休みをみんなが楽しく過ごせることを目標に、日々企画を考え、実施しています。他のサークルと掛け持ちで参加している人も多いため、イベントごとに集まる人数にはバラツキがあります。ですが、久しぶりに参加しても、自然と溶け込み笑顔がこぼれるような環境作りを心掛けています。

BUMPSに所属している学生は、皆楽しいことが大好きな人たちです。サークルを引っ張る幹部をはじめ、学年、学校を越えて積極的に交流を深めたい人が集まっています。実際に、このサークルの活動に参加した人と、サークル以外でも遊ぶほど仲良くなった人たちもいます。

楽しいことが好きな人、  
一生に一度しかない大学生活を充実させたい人、  
友達を増やしたい人、スポーツが好きで人、  
他の大学の人も交流したい人・・・  
BUMPSには、それぞれ色んな思いを持った人がいます。  
興味を持った人は、ぜひ見学に来てください!  
一緒に汗を流しましょう。ありがとうございました。



夏合宿、宿舎の前で





# 医学部交響楽団



木管アンサンブル

員みんなの音と重なって、『曲』になります。その瞬間がたまたま楽しくて、嬉しくて、心地良いです。

また、演奏会の前にある合宿では数日間仲間とともに過ごし、集中的に音楽と触れ合うことで、より良い曲に仕上げます。特に夏合宿の終盤では、一般の方に合奏を公開することで、演奏会への意識を高めます。こうして徐々に準備を進めていき、演奏会を迎えます。

先日、年に2回ある演奏会のひとつ、10月の定期演奏会を無事終えました。演奏会での演奏についてお客様に書いていただいたアンケートに励まされ、また叱咤され、練習に励むことができます。今は次の3月のスプリングコンサートに向けて練習に励んでいます。

また演奏会だけでなく、部内のアンサンブル大会、病院アンサンブル、入学式や卒業式での演奏など演奏の機会も多く、充実したオケライフを送れます!



夏合宿での合奏風景

こんにちは!私たちは医学部交響楽団です。交響楽団、つまりオーケストラ、通称オケです。私たちは総勢70人ほどの大所帯で活動しています。まず、オーケストラとは?管弦楽とも呼ばれ、弦楽器、管楽器、打楽器が合奏(みんなで合わせての演奏)することです!でもオーケストラってなんだか難しそう...と思ってる方もいるでしょう。しかし、医学部オケは初心者が多いのです!大学で音楽を始めた人もたくさんいます(^^)医学部オケでは12もの楽器のパートがあり、それぞれ自分でパートを決めて練習しています。さらに指揮も学生が行っているため、まさに学生主体のオーケストラです。医学部オケでは、毎週土曜日に合奏を行っています。合奏は、一週間練習してきた成果を出す場です。個人練習ではひとつだった自分の『音』が、合奏では部

音楽好きなそのあなた!  
聴くだけじゃなくて  
演奏してみたいと思いませんか?  
初心者も大歓迎なので、  
是非見学しに来てみてください!



定期演奏会にて、金管楽器の集合写真



演奏会場での練習風景



弦楽器によるアンサンブル

KOFU CAMPUS

甲府

## 附属図書館を 有効活用することで 大学生活をより豊かに

今回ご紹介するのは、2014年春にリニューアルオープンした山梨大学附属図書館本館です。

1階にはラーニング・commonsという多目的に使える学習空間が新しく完成しました。新聞や雑誌が読めるスペースができたほか、移動式の大きな机に加え、プロジェクターやiPad等の機器の貸し出しも行っているため、作業やミーティングに重宝されています。

2階は小説や専門書、辞典等多くの図書がそろっています。借りた1階は広々とした空間で使い方は様々な本は2階の貸し出し機か1階の総合カウンターで貸し出し処理をすることで借りられます。また2階には、個別の仕切りがある学習机や、グループで活動できる学習室も完備されているので集中して効率的に学習することができます。

3階は刊行された雑誌や論文が多く並んでおり、レポートや論文作成に大いに参考になります。視聴覚室やYINS端末室も設置されています。

その他、学生相談員や夜間の特別利用、本のリクエスト等、学生の学びを応援する制度が図書館にはたくさんあります。有効活用すること



1階は広々とした空間で使い方は様々



2階は多くの学習機と蔵書、貸出機もある。奥にはグループ学習室が設置されている。

で、大学生活がより一層豊かなものになると思います。

図書館のHPでも随時情報を更新しているので、そちらもご覧ください。

ぜひ、山梨大学附属図書館を活用してくださいね。

(教育人間科学部学校教育課程障害児教育コース4年 小田琴美)

**山梨大学附属図書館** <http://lib.yamanashi.ac.jp/>

山梨県甲府市武田4-4-37

[電話]055-220-8066 [FAX]055-220-8793

[E-mail]serv@yamanashi.ac.jp

[開館時間]通常/8:45~21:00(平日) 13:00~16:30(土曜日)

各季休業期間/8:45~17:00(平日) 休館(土曜日)

※各季休業期間とは、長期授業休業期間を指します。

FACULTY OF MEDICINE CAMPUS

医学部

## シャトルバスを 上手に利用して 充実した大学生活を

私が今回紹介するのは、山梨大学のシャトルバスです。これは、甲府キャンパスと医学部キャンパスを結んでいるもので、朝・昼・夕と3往復しています。

医学部には、1年生の時は甲府キャンパス近隣に住み、2年生から医学部キャンパスのある中央市へ引っ越す学生が多いのです



甲府キャンパス ← シャトルバス発着場所 → 医学部キャンパス

が、1年生の時から毎週金曜日に(看護科は後期から水曜日午後も)医学部キャンパスでの講義があったり、また、医学部のサークルに所属している人は、さらに医学部キャンパスへ移動する回数が増えます。

電車だと、甲府駅から常永駅まで約20分かかり、駅からまた15分程度歩かなくてはなりません。電車の数も多くは待たなければならないことが多いので、時間がかかってしまいます。そんな時、シャトルバスを利用すれば30分程度で移動できますし、仲の良い友達や同じサークルの人と座れば移動時間も楽しく過ごすことができます。また、無料ですので、一人暮らしの学生にとってはとても嬉しい、強い味方です。

朝は、2限の開始時刻に合わせて運行していますし、夕方の便(医学部→甲府)は授業の終了に合わせて出発時間を変更してことがあります。キャンパス間の移動は大変ですが、このシャトルバスをうまく利用すれば、楽しく充実したキャンパスライフ送ることができますよ。  
(医学部看護学科2年 高橋瑞季)

# 大学の財政状況について

平成25年度決算の損益計算書から、山梨大学の財政状況を見てみましょう。

## ● 損益計算書の概要 ●

| 経常費用     |               |
|----------|---------------|
| 教育経費     | 1,807         |
| 研究経費     | 1,794         |
| 診療経費     | 10,077        |
| 教育研究支援経費 | 289           |
| 受託研究費等   | 2,203         |
| 人件費      | 15,172        |
| 一般管理費    | 629           |
| その他      | 119           |
| <b>計</b> | <b>32,090</b> |

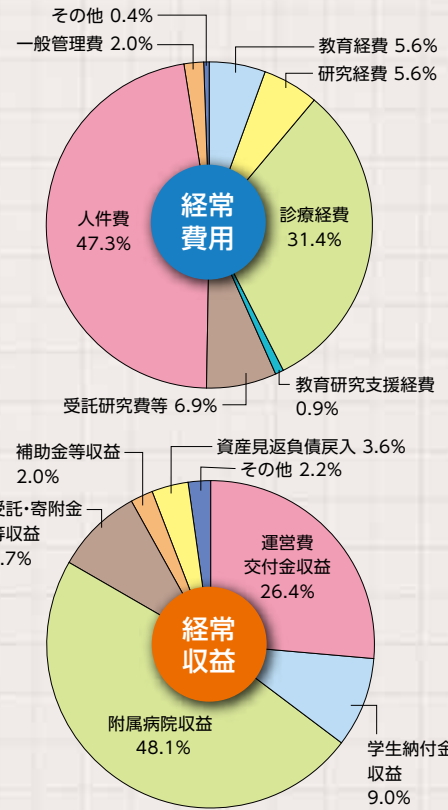
| 臨時損失     |           |
|----------|-----------|
| 固定資産除却損  | 6         |
| その他      | 8         |
| <b>計</b> | <b>14</b> |

| 当期総利益      |  |
|------------|--|
| <b>441</b> |  |

| 経常収益      |               |
|-----------|---------------|
| 運営費交付金収益  | 8,594         |
| 学生納付金収益   | 2,925         |
| 附属病院収益    | 15,653        |
| 受託・寄附金等収益 | 2,847         |
| 補助金等収益    | 635           |
| 資産見返負債戻入  | 1,182         |
| その他       | 709           |
| <b>計</b>  | <b>32,545</b> |

| 臨時利益     |          |
|----------|----------|
| その他      | -        |
| <b>計</b> | <b>-</b> |

| 目的積立金取崩額 |  |
|----------|--|
| <b>-</b> |  |



本学の平成25年度決算を収支全体で見ると、大学の運営に必要な費用は約320億90百万円、収益は約325億45百万円でした。

大学の財源となる経常収益は、附属病院収益が一番多く約156億53百万円(48.1%)、次に国からの運営費交付金収益が約85億94百万円(26.4%)となっていて、この二つの収益だけで全体の約75%を占めています。このうち、附属病院収益は高度先端医療機器の導入や手術件数の増加などにより過去最高額となっています。

授業料や入学金など学生の皆さんが納付する収益は約29億25百万円(9.0%)であり、国の支援により経営が成り立っていることがわかります。また、学生納付金収益額は授業料免除を実施する前の総額であり、実際にはここから授業料約2億42百万円と入学金約6百万円が免除されています。授業料免除額は授業料収益の9.7%に当たります。

受託研究費や寄附金などの外部資金は約28億47百万円(8.7%)であり、同種・同規模大学の平均4.9%を上回っています。今後も積極的に外部資金を獲得するよう努力していきます。

経常費用は、人件費が約151億72百万円(47.3%)と約半分を占め、診療経費も約100億77百万円(31.4%)となっています。

教育経費(教職員人件費を除く)は約18億7百万円(5.6%)で、学生1人当たりでは約37万2千円となっており、同種・同規模大学の平均約26万2千円を上回っています。

研究経費は約17億94百万円(5.6%)で、教員1人当たりでは約228万円となっており、同種・同規模大学の平均が約245万円を下回っていますが、外部資金の獲得により研究経費を確保しております。

財務会計の処理上では、当期総利益が約4億41百万円と企業会計でいう経常利益計上になっていますが、これは国立大学法人特有の会計ルールによるものが大部分で、実際に現金の裏付けのある利益は約1億12百万円となっています。なお、「利益」は、文部科学大臣の承認を得て、教育・研究・診療の質の向上や組織運営改善のために使用していく予定です。

本学も他の国立大学法人と同様に、運営費交付金の削減等、年々厳しい経営環境に置かれている状況ではありますが、教育、研究、社会貢献機能の強化による外部資金の獲得額増加や管理的経費の抑制、附属病院の増収策を施す等継続した取組みにより、安定した財務状況を保つことができています。

学生納付金依存度 9.0%  
同種・同規模25大学平均 11.4%

授業料免除額対授業料収益 9.7%  
=授業料免除額(2億42百万円) / 授業料収益(25億5百万円)

外部資金比率 8.7%  
同種・同規模25大学平均 4.9%

同種・同規模25大学とは、医科系学部とその他の学部で構成され、学生収容定員1万人以上の大規模大学を除く25国立大学法人を指しています。

人件費比率 48.4%  
同種・同規模25大学平均 50.5%

学生当教育経費 37万2千円  
同種・同規模25大学平均 26万2千円

教員当研究経費 228万円  
同種・同規模25大学平均 245万円

なお、詳しくは山梨大学HP・財務に関する情報 ([http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile\\_top/](http://www.yamanashi.ac.jp/modules/profile_top/)) をご覧ください。

「発生工学研究センター」  
開所式を挙行



発生工学研究センターの看板

革新的技術力と研究力を兼ね備えた発生工学研究者の需要は、ライフサイエンスの進展とともに今後益々増大すると予想されます。そこで、本学では極めて高いレベルの発生工学的技術を身につけた優れた研究者を養成することを目的とした「発生工学研究センター」(センター長:若山照彦教授)を設置し、8月1日(金)に開所式を挙行しました。

式では、まず前田秀一郎学長から「国内外の教育、研究機関と協働して先端的医工農融合ライフサイエンス研究を推進し、その過程を通じて、ライフサイエンス・イノベーションを創出できる世界トップレベルの発生工学的技術と研究力を兼ね備え、基礎、並びに応用研究分野においてグローバルに活躍できる発生工学研究エキスパートを養成することを目指します。」との挨拶があり、続いて、前田学長、



除幕の様子

若山センター長による「発生工学研究センター」看板の除幕が行われました。

引き続き、発生工学研究センターの概要と事業内容等について、記者説明会が行われました。

募集要項の請求方法など(入試課)  
受験生の皆様へ

<入試に関するお問い合わせ先>

山梨大学教学支援部入試課  
TEL : 055-220-8046  
E-mail :  
nyushi@yamanashi.ac.jp

募集人員: 平成27年度山梨大学一般入試

| 学 部     | 前期日程 | 後期日程 |
|---------|------|------|
| 教育人間科学部 | 86人  | 32人  |
| 医 学 部   | 35人  | 95人  |
| 工 学 部   | 225人 | 46人  |
| 生命環境学部  | 110人 | 20人  |

|   |
|---|
| 出願期間:平成27年1月26日(月)~2月4日(水)  |
| 試験日程:(前期日程)平成27年2月25日(水)、26日(木)<br>(後期日程)平成27年3月12日(木)<br>平成27年3月16日(月)(看護学科) |
| 合格発表:(前期日程)平成27年3月6日(金)<br>(後期日程)平成27年3月20日(金)                                |

募集要項の入手方法:

①大学ホームページから請求する場合……(「入試情報」→「募集要項/入手方法」)

②テレメールで請求する場合

1. 下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

●自動音声応答電話の場合

IP電話 050-8601-0101

※IP電話:一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分間毎に約12円です。

●パソコン・スマホ・ケータイの場合

http://telemail.jp

2. 希望する資料番号(6桁)をプッシュまたは入力してください。

| 資料名             | 資料番号   | 送 料  | 郵送開始日 |
|-----------------|--------|------|-------|
| 大学案内            | 563351 | 300円 | 配布中   |
| 一般入試学生募集要項      | 583351 | 350円 | 配布中   |
| 一般入試学生募集要項+大学案内 | 543351 | 350円 | 配布中   |

3. あとは、ガイドランスに従って登録してください。

③モバイルで請求する場合

●パソコン・スマホ・ケータイの場合 http://djc-mb.jp/yamanashi/

なお、詳細は、下記大学ホームページ(入試情報)をご覧ください。

(URL: http://www.yamanashi.ac.jp/modules/admission\_top/)



編集後記

甲府盆地特有の朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。凜とした早朝のキャンパスから望む富士山や南アルプスの山々は、美しく輝き、手が届く程の距離にあるかのように近くに感じられます。多くの山々に見守られながら私たちが歩んできた2014年が終わろうとしています。

今号では、話題の「反転授業」を取り上げました。学生が受動的となりがちな従来型の一斉講義を改め、能動的な学びを促進するための新たな取り組みです。授業内で学生同士の積極的なコミュニケーションが増え、導入の効果もすでに確認されているようです。スマホなどSNSを介した交流が盛んな今日ですが、顔と顔を突き合わせて、言葉で理解し合うことの重要性はこれからも否定されることはないでしょう。

富士五湖に生息するフジマリモの発見は偶然ではなく、周到な研究仮説の構築があって達成できたことや、スマートコミュニティの実現の鍵は、実は技術ではなく私たち人間の意識であることなど、山梨大学にはエキサイティングな研究があることがとても良く分かります。学生の皆さんも、思い思いにキャンパスライフを楽しんでいるようです。

皆さんにとって、2015年が素敵な年になることを祈っています。

広報誌専門委員会委員長 小山勝弘

表紙作品の紹介

タイトル  
「やさいとむち」

赤堀智穂  
教育人間科学部  
芸術身体教育コース 美術教育系3年

山梨大学広報[ヴァイン] December 2014 vol.24

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

http://www.yamanashi.ac.jp/



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。